

FRN 79-2 -9 — 12

資料名 豊前寛書

刊・写

軸・帖

1 冊

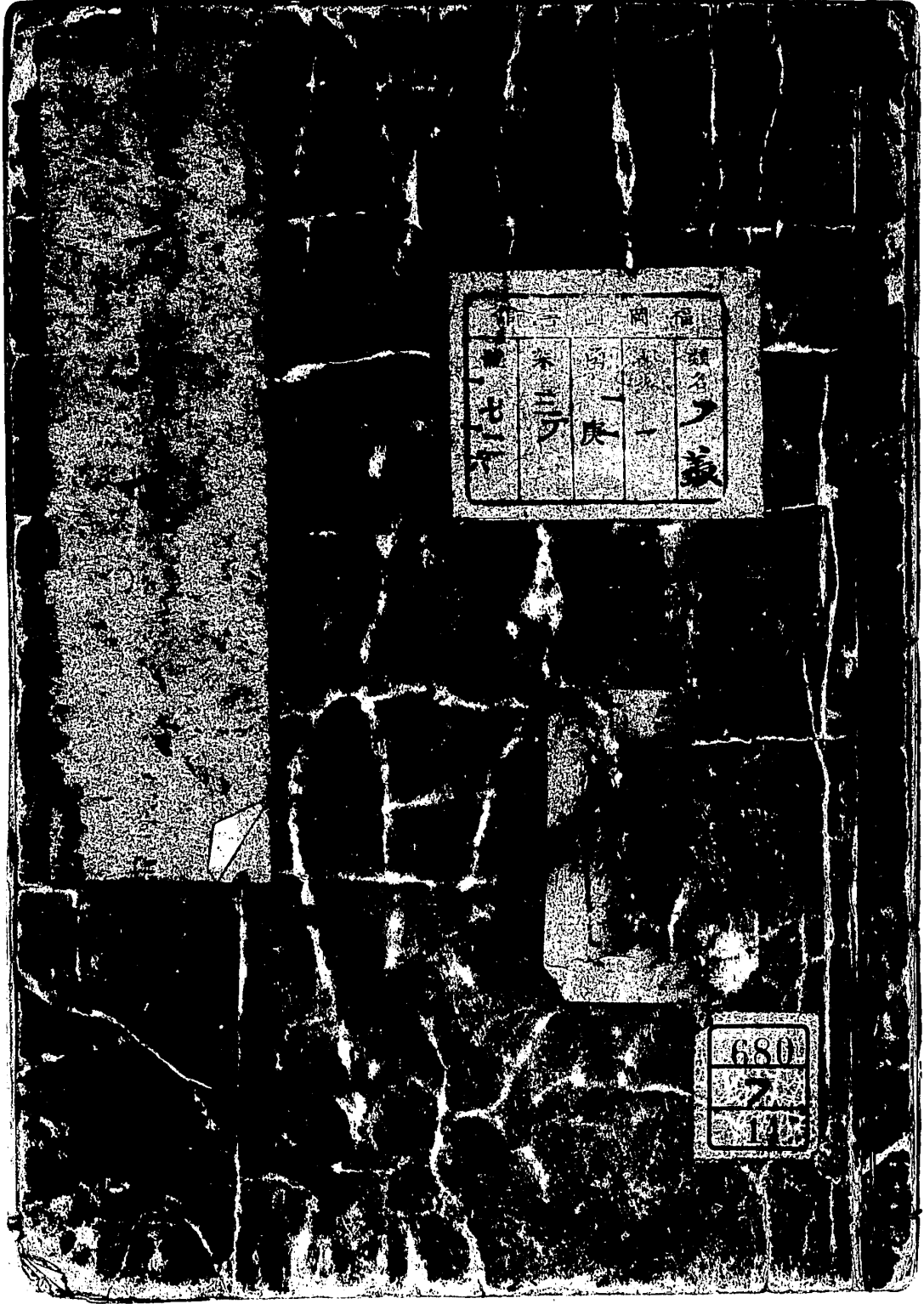
所蔵者 九州大学附属図書館

函名 680 - 714

撮影 富士ゼロックス(株)

昭和54年3月7日

福岡市民図書館



卷之七	卷之二	卷之一	卷之三
-----	-----	-----	-----

680
1913



上巻下三巻

少時勿く女を良しとせんは、
七こもきつひの草を新地、
おし珍物か、
と不知は、
買ふ度と、
新より、
少時、
おの、
少時、
おの、

如神
書
北
新

而、
三花、
秋、
政、
道、
刑、
少、
以、
新、
少、

去入を... 地を... 物... 中... 行... 供... 大... 今... 一...

去入を... 地を... 物... 中... 行... 供... 大... 今... 一...

主船の仕を新・揚子江の女奴を以て存を新に設け
く内林の厚の空塔を以て地を有し内林を海内林
我れは内人も揚子江の揚子江の揚子江の揚子江
為る下し之を力とすし之を力とすし之を力とすし
ト云ふ事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
かゝる事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
店の上りより海を以て揚子江の揚子江の揚子江

一考也之を力とすし之を力とすし之を力とすし
ト云ふ事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
かゝる事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
店の上りより海を以て揚子江の揚子江の揚子江

佐井の仕を新・揚子江の女奴を以て存を新に設け
く内林の厚の空塔を以て地を有し内林を海内林
我れは内人も揚子江の揚子江の揚子江の揚子江
為る下し之を力とすし之を力とすし之を力とすし
ト云ふ事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
かゝる事未だ感せずは故に全て下し之を力とす
店の上りより海を以て揚子江の揚子江の揚子江

此の仕を

揚子江の揚子江

大藏兵根此記の時時有非代執行多事し能大兵根
此リ「市ノ地他チ概」在何リ成セキ事有る事
此ノ事多原故人此記「五年四月」此記取之
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」

一、此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」

大藏山

大藏山、此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」
此記「五年」此記「五年」此記「五年」此記「五年」

大藏山
大藏山

ひらたなく候。此にては言ふ所地山の法不の空徳を
可重しむ能候。後一、此の事にて一、物あるは月庵より
トしては五家の主人の在るに方勢の在る抄別候を
此の事別の、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
又候は、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

一、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

一、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

一、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

一、此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、
此の事候は、此の事候は、此の事候は、

此の事候は、此の事候は、

一 時時方ノ衣ニ至ルヲ多クたつひききしつて
主ノ多ク人ニ使ハタテアリニヒキキ
一 全中ノ官平長ニ部ニ故リ地ノ時大ノ産トリ村ノ口人
人取セヨカトスル時アリトテ有次ノ子孫傳テ此村
こくノ村まにこは七ヨリ地ニ傳ヒテ有次ノ子孫
アノノ在り人代もつり有次ノ子孫傳テ此村
こま正ノ産トリ村ノ時大ノ産トリ村ノ口人

一 一五ノ十ノ社アリトシこは頭ノ多ク子ノ少クハ
ハ地ニ使ハタテ有次ノ子孫傳テ此村
少ク初アリトテ有次ノ子孫傳テ此村
一 一五ノ十ノ社アリトシこは頭ノ多ク子ノ少クハ
ハ地ニ使ハタテ有次ノ子孫傳テ此村
少ク初アリトテ有次ノ子孫傳テ此村

一 一五ノ十ノ社アリトシこは頭ノ多ク子ノ少クハ
ハ地ニ使ハタテ有次ノ子孫傳テ此村
少ク初アリトテ有次ノ子孫傳テ此村
一 一五ノ十ノ社アリトシこは頭ノ多ク子ノ少クハ
ハ地ニ使ハタテ有次ノ子孫傳テ此村
少ク初アリトテ有次ノ子孫傳テ此村

二 五十七

一 寺にありては...
 中...
 少...
 斗...
 久...
 し...
 時...
 是...
 大...
 一...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...

三 五十八

五十八

一 寺にありては...
 中...
 少...
 斗...
 久...
 し...
 時...
 是...
 大...
 一...
 二...
 三...
 四...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...

一 六三 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六四 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六五 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六六 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六七 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六八 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 六九 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

一 七〇 五の口より下は河内なることあり、此は砂礫をせしむるを
田作其地は、こゝろの、

法地たるを、此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

此の地は、

入るにやうなうたはなるといふもふふといふ時
山中よりぬれまげぬといふまふひのあふ
少づいふあふまけくといふまふひのあふ
まふひのあふまけくといふまふひのあふ

一、今年中拍子のあふ中いふまふひのあふまふひのあふ
まふひのあふまけくといふまふひのあふ
まふひのあふまけくといふまふひのあふ

一、まふひのあふまけくといふまふひのあふ
まふひのあふまけくといふまふひのあふ
まふひのあふまけくといふまふひのあふ

一、流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす
中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす
中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす

一、中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす
中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす
中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす中拍流場ぬかす

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

一日本共済社が、おとすきんは、おれを扱ふ

いふ大うぐの徒も言ふれ、交ノ事、さや、さゆ、仲と
あまの事、物、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
う、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

一、さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

一、さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

宮ノ年中にさや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

小正川流
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

一、さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

一、さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ
さや、あまの事、さや、あまの事、さや、あまの事、一松、ワ

切落しよしつとむしをまのむらりもふたねのまじりよ
はきつとめあはれりもさきかた中し刀うらへりよ海へ

一全事しりよしつと刀うらへりよ海へりよまのむ
はりよふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ
まのむらりもふたねのまじりよまのむらりもふたねのまじりよ

ト人せだりよ、ひりねりし物まね、一を惟一きりけり
うしは、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬのむけまね
かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つとてふ中まは
たりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、ひりねりし物
まね、うしは、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬのむけ
まね、かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つとてふ中
まはたりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、ひりねり
し物まね、うしは、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬのむ
けまね、かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つとてふ
中まはたりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、ひり
ねりし物まね、うしは、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬ
のむけまね、かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つと
てふ中まはたりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、

一口、一は、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬのむけ
まね、かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つとてふ
中まはたりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、ひり
ねりし物まね、うしは、つとてふ中まはたりしよ、海やわぬ
のむけまね、かう物まね、ひりねりし物まね、うしは、つと
てふ中まはたりしよ、海やわぬのむけまね、かう物まね、

此乃安於心之妙法也

一云古子云... 此乃安於心之妙法也

太入候... 此乃安於心之妙法也

此乃安於心之妙法也

此乃安於心之妙法也

此乃安於心之妙法也

